

【特別企画】

大判プリント教材を用いたディベート教育¹

Debate Education Using Large-sized Handouts

岡田美鈴

宇部工業高等専門学校

OKADA Misuzu

National Institute of Technology, Ube Colleg)

This paper reports on the lessons of debate education using large-sized handouts. The lessons are conducted to 210 students belonging to the Department of Mechanical Engineering, Electrical Engineering, Intelligent System Engineering, Chemical and Biological Engineering and Business Administration. The students formed small groups and used large-sized handouts to construct arguments on themes based on the SDGs, and the students held a debate competition with the students of another department. The benefit of the handouts is that teacher can analyze their English sentences and questionnaire after the debate matches. In this way, the analysis provides feedback to the teachers and enables the improvement of teaching materials and instructional methods.

Key words: debate, debate education, large-sized handouts, KH Coder

Debate and Argumentation Education: The Journal of the International Society for Teaching Debate 2025, Vol.7, pp. 32-44.

1. はじめに

日本でも「グローバル」ということばが当たり前のものになって久しいが、日本人英語学習者、ことに学校で学ぶ生徒や学生にとって、文部科学省の『学習指導要領』（2018）に挙げられている総合的な英語運用能力を獲得することはいまだに難しい。日常生活で英語を使う機会が限られ、教室内かつ限られた時間での体験が主になる場合、教室内でいかに有意

¹ 本研究は、科研費 23K00739 による補助を受けて行われたものである。

義なアウトプットができる活動を学生に提供できるかは、教員にとっても悩ましいところである。しかしながら、白畑（2021）が述べているように、現在の英語は“World Englishes”と呼ばれ、英語母語話者よりも非英語母語話者の数が圧倒的に多いとされている。世界中で様々な特徴や方言を持った英語が話されているのである。そういった状況を鑑みると、日本人英語学習者にとって大切なことは、「正しく英語を使う」ことではなく、「自分の持っている知識を駆使しながら、思い切って英語を使う」ことではないだろうか。そういった観点から、質疑応答を含む英語でのディベートやプレゼンテーションなどは、双方向でのコミュニケーションを可能にする良いアウトプットトレーニングとなると思われる。

こうした背景から、宇部工業高等専門学校での英語の授業では、1、2年生にはプレゼンテーションを、3、4年生にはディベートを実施している。本稿は、3年生を対象にした学科横断型のディベート研究授業について詳細を報告するものである。授業は7回で、大判プリント教材を使いながらテーマについて深く学び、議論を構築し、その後ディベートを実施、終了後は大判プリントや振り返りなどの成果物を教員が KH Coder（樋口, 2015）で分析し、次の研究授業へフィードバックするといった一連の授業実践を紹介していくのが主眼である。

2. アウトプットを目的とした授業実践

本校では、英語科のみならず化学や体育、専門科目でも英語を用いた授業を展開している。英語でプレゼンテーションやディスカッション、スポーツをしたりするためには、準備段階としてグループで議論や作戦を構築していく必要がある。議論構築の段階では日本語や英語を適宜使い分けながら進め、そのテーマに適した語彙を選択したり、SVO や SVC などを念頭に置いた英文作成などをしていく。中でも、化学と英語では、グループ活動においてメンバー全員がテーマに関する議論の流れを理解し、チームワーク力を発揮しながら議論を構築していく補助教材として、大判プリントを用いた活動を取り入れている。

中村他（2021, 2023）は筆者と連携した CLIL 型授業を設計し、1年生の化学の授業において大判プリント教材を使ったプレゼンテーション授業を実施している。例えば、カーボンニュートラルを題材に、授業の目標を提示した後、英語で化学の項目を学び、重要な専門用語を英語で確認したり発音したりの練習をする。その後、SVO や SVC で簡単に英文を作るための英文法復習をした後、大判プリントを使って情報収集や発表の構成、ストーリーボードを作成し、議論を可視化している。最後に学生は A4 サイズのプリントで紙芝居のように説明資料を作成し、化学を専門としない本校の留学生を相手に、カーボンニュートラルについて小学生が理解できるくらいの平易な英語で説明し、質疑応答をしている。

また、岡田（2023a）や Okada（2023b）も、持続可能な開発目標（以下 SDGs）をテーマにしたプレゼンテーションやディベート活動を実施している。化学の授業と同様に、テーマについての情報収集や議論の流れ、スクリプトの作成など大判プリントを使用してグループの方向性を可視化しながら活動を行った。オンライン授業の際は大判プリントは使用できないため、A3 サイズで同様のものを作成し、Microsoft Office 365 上でグループメンバー

が会議を開きながら、各自で意見をファイルに書き込むという対面と同じ方法で活動を実施した。

このように、グループメンバー全員で付箋や大きなプリント教材などを用いて議論すると、個々のチームワーク力や課題解決力の向上とともに、全員が割り当てられたテーマについての自分たちの議論を理解することや考えることが容易になる。

3. 学科横断型ディベート研究授業

3.1 参加者と目的

本研究授業の参加者は、宇部工業高等専門学校3年生 218名である。学生はそれぞれ機械工学科、電気工学科、制御情報工学科、物質工学科、経営情報学科に所属しており、それぞれの学科には41名から46名までの学生数を有する。事前のアンケートにおいて、日本語でのディベート経験があると答えたのは数名で、英語でのディベート経験があると答えた学生はいなかった。

学生は、総合的な英語運用能力だけでなく、主体性、チームワーク力、課題発見力、思考力、判断力、表現力など（文部科学省,2018; 国立高等専門学校機構,2017）も身につけなければならない。したがって、1回目のガイダンスにおいて、シラバスの説明とともに本授業の目的を以下のように伝えている。

- A) 相手に伝わる簡単な英語を用いて、議論を構築すること。
- B) 議論を構築するにあたって各自がそれぞれ意見を出すこと。
- C) 積極的に質疑応答にチャレンジすること。

この目的の裏には、A) 各テーマにおいて、どのような語彙や表現を使っているのか、B) 大判プリントを用いることによって、議論の構築や可視化が容易になされているかどうか、C) 提供している授業資料によって、質疑応答ができるかどうか、といったことが含まれている。教員としては、授業の結果、上記のような目的が達成されるかどうか大事なポイントになるであろう。

3.2 方法論

本研究授業は7回で実施された。

【1回目】ガイダンス・ディベートについて解説

この授業は2学科と3学科合同で実施したため、体育館を利用した。メンバーがひと固まりに座ってグループ活動を進めていく。最初にシラバスの解説をする中で、日本もグローバル化している昨今、こういった職種についても総合的な英語運用能力が必要になる可能性があること、また、企業が求めているものがコミュニケーション能力など汎用的技能であることについて説明した。この授業は、SDGsという世界的課題をテーマに理解を深め、グ

ループ活動を通して議論を構築し英語でディベートをすることで、社会において必要な能力を育成・向上することが可能であることについても説明した。その後、穴埋め式になっているプリントを配布し、ディベートとはどういった目的で、どういった流れで行うのかを解説し、そのプリントは後日、試験の範囲になることを伝えた。最後に、グループワークを円滑に進めるために必要な役割、リーダー、タイムキーパー、備品係、書記などを決め、リーダーがくじを引いて各グループのテーマを決定した。

【2回目】議論の組み立て方・テーマについての大まかな議論

授業の冒頭、1回目と同様に穴埋め式のプリントを配布し、議論の組み立て方について細かく解説した。学生は話を聞きながら空欄に重要なキーワードを書き込んでいった。また同時に、ディベートの立論から質疑応答、反駁まで使える英語表現文例集を配布し、それらの表現を使うよう促した。次に、図1（巻末の資料ページ参照）の大判プリントを配布し、学生にテーマについての大まかな議論をさせた。この時点では肯定派も否定派も決めず、両方の立場から意見を出すよう指示した。テーマは以下の6つである。

- 1) コンビニエンスストアなど 24 時間の営業を廃止し、電力の消費を抑えるべきである。
- 2) 英語の授業を選択制にすべきである。
- 3) 男女関係なくあらゆる人が政治に携わったり管理職についたりするべきである。
- 4) 森林伐採はいかなる理由であっても廃止されるべきである。
- 5) あらゆる場所に上下水道が整備されるべきである。
- 6) 食料廃棄は廃止すべきである。

【3回目】立論

3回目から肯定側か否定側かが決まり、各グループは図2（巻末の資料ページ参照）のプリントを使って2回目で話し合った内容を基にさらに情報収集をしながら意見を出し合い、英語表現文例集を使って英語で立論を組み立てていった。相手が理解しやすいよう、英文は短く、且つ平易に書くよう、教員はグループ間を巡視しながら必要なことを補助した。

【4回目】質疑応答

3回目の授業内とその後1週間かけて、各グループは立論を作成し、4回目の授業を迎えた。質疑応答は学生が最も苦手とする活動である。ここで教員が決めた各グループの対戦相手を発表し、相手の立論を見に行くという活動を挟んだ。そうすることで、相手の議論の弱いところを確認し、どこを質問したら相手の議論を弱めることができるかについて考えることができる。通常のディベート大会ならばその場で考えるところではあるが、この授業では「質疑応答」を体験させることが目的のひとつであるため、このような活動をさしはさんだ。それを基に学生は、図3（巻末の資料ページ参照）の大判プリントの左側を使って、英

語表現文例集の中から選んだ質問の例文を参考に相手の議論の明確化を図ったり、詳しい説明を求めるような質問文を作成した。さらに、相手から来る質問を想定し、右側に想定問答集を作成させた。立論で出たデータや議論以上のものを出さないよう注意を促した。

【5回目】反駁

最後に図 4（巻末の資料ページ参照）の大判プリントを使って反駁を作成した。左側に相手の議論の弱いと思われるところを挙げながら、これまで行った議論を基に相手チームの議論を切り崩すための反論を作成するよう指示をした。右側には自分たちの反駁について、立論を言い換えたり、相手の議論の弱いところを例に挙げたりしながら作り上げていった。

【6回目】議論の確認

6回目はすべての大判プリントを床に並べて、議論の筋が通っているかについてメンバー全員で確認をさせた。さらに、誰がどこを担当するのかを決めて、複数回練習をさせた。

【7回目】学科横断型ディベート

7回目は、機械工学科と経営情報学科の 2 学科で、電気工学科と制御情報工学科、物質工学科の 3 学科で、違う学科同士でディベート対戦を行い、終わった後、振り返りワークシートに記入して、一連の授業を終了した。

3.3 成果物の分析

学生が作り上げた成果物は、大判プリント 4 枚と 5 件法のアンケート及び自由記述を含む振り返りワークシートであった。そのうち立論、質疑応答、反駁の大判プリントに書かれてある英文と振り返りワークシートの自由記述について、KH Coder を使ってどのようなことばを多く使っているのかについて調査してみた。今回は紙面の関係上、全員分の振り返りワークシート自由記述と、テーマ 1 の大判プリントの結果だけを報告する。

テーマ 1 は「コンビニエンスストアなど 24 時間の営業を廃止し、電力の消費を抑えるべきである」であった。立論と応答、反駁で多く使われている語彙を抽出したところ、肯定派は表 1、否定派は表 2 のような結果となった。

表1 肯定側立論・応答・反駁

名詞	語数
power	25
business	23
hour	23
night/ midnight	21
%	16
consumption	16
day/daytime	13
example	7
carbon/dioxide	7
electricity	6
形容詞	語数
24-hour	12
electric	5
動詞	語数
be	111
reduce	23
abolish	16

表2 否定側立論・応答・反駁

名詞	語数
night	18
hour	18
people	17
business	14
crime	12
power	12
%	10
consumption	9
prevention	8
operation	6
形容詞	語数
24-hour	15
open	9
important	7
動詞	語数
be	138
work	15
abolish	11
reduce	9
stop	9
save	6

肯定側では「電力を抑えるべきである」という意味合いで power を多く使っている。また、夜の営業について CO2 の排出などを例に挙げ廃止すべきであるという立場をとっている。一方否定側は、トラックや夜勤など夜の営業を必要としている人がいることや、犯罪の抑止になるというようなことも述べている。件数は少なかったが地震などの災害時にもコンビニエンスストアの営業は重要であることを述べているグループもあった。両者とも数値や例などを示していることがわかる。動詞を見ると be を圧倒的に使っていることがわかる。これは助動詞などと合わせて受動態を作っている例が多く、日本人英語学習者は be 動詞を多用することもこの結果から見えてくる。

次に質疑で使われている語彙を抽出した結果を表3と4にそれぞれ示す。

表3 肯定側質疑

肯定 名詞	語数	肯定 動詞	語数
night	7	be	26
right	5	do	13
		think	6

表4 否定側質疑

否定 名詞	語数	否定 動詞	語数
power	6	be	16
business	5	do	7
hour	3	reduce	6
		explain	5

肯定側は、right?と聞いて明確化を求める質問を多用していることがわかる。また、動詞の方からも Do you think の文を使っていることが見えてくる。一方否定側は、具体的な内容を指して説明を求めていることがわかる。

次に、振り返りワークシート自由記述の語彙抽出を見てみる。一連の活動が終わった後に、5件法のアンケートと自由記述の振り返りワークシートを実施した。5件法のアンケートからは概ね活動への達成感を感じられる結果となった。自由記述のコメントからは、質問・質疑についてのコメントが多く、大変な活動であったことや難しく感じた様子がわかる結果となっている。

表5 自由記述の語彙抽出

名詞	語数	形容動詞	語数	形容詞	語数
質問・質疑	79	大変	31	難しい	109
相手	69	スムーズ	19	良い	35
自分	57	必要	6	楽しい	13
意見	52			上手い	12
協力	46			深い	12
グループ	34				

4. 考察

本研究授業は、A) 相手に伝わる簡単な英語を用いて、議論を構築すること、B) 議論を構築するにあたって各自がそれぞれ意見を出すこと、C) 積極的に質疑応答にチャレンジすることを学生への目標とし、教員としてはA) 各テーマにおいて、どのような語彙や表現を使っているのか、B) 大判プリントを用いることによって、議論の構築や可視化が容易になされているかどうか、C) 提供している授業資料によって、質疑応答ができるかどうか、といったことを見ていくことが目的であった。KH Coderの分析結果からも、お互いがテーマ

について重要かつ主要な語彙を使用していることが分かった。今回の分析だけでは簡単な英語を用いていたかまでは判明していない。今後は、文の長さや文法表現、英語表現文例集をどの程度使っているかなども分析していく必要があるが、相手に伝わる英語を作る学生の努力は見られたと思われる。また、大判プリントでのグループ活動の際、自分の意見には名前を書いておくよう指示したため、概ね全員が意見を出すことができていたことがわかっている。さらに、プリント上でそれぞれの意見を並び替えて議論の筋が通るようにしていたグループが多かったことも、大きなプリントで学生が議論をうまく構築しながら可視化できた結果ではないだろうか。3つ目の質疑については、やはり苦手意識があると思われる。質問する際に英語表現文例集をほぼすべてのグループが多用していたが、明確化要求や詳しい説明を求められることができて、自分がそういった質問をされたときに上手く答えることが難しかったことがコメントや語彙抽出の中にも含まれていた。学生にとって、特に質疑応答が大変だったことは語彙抽出からも見てとれる。今後の課題として、質疑応答のトレーニングの機会をもっと多く創出することが重要であると感じている。

5. まとめ ディベートを円滑に進めるための大きな紙

学生には多くの教材や資料を提供することになり、準備する教員としては大変な面もあるが、このように議論を「見える化」することで学生自身も整理がつけやすく、また教員側も成果物から様々な学生の様子を分析することが可能となる。本研究授業ではディベート活動を軸にA2サイズの大判プリントを使用した。もちろんA3サイズで教室での実施も可能である。あわせてディベートの仕組みが理解できる教材や表現文例集なども渡すことにより、学生たち自身で活動が可能となり、教員は机間巡視しながらファシリテートすることでディベート活動を実施することができる。成果物の分析からも、学生がどのような語彙を好んで使っているのか、どういったことに難しさを感じているのかなどが見えてくるため、それらが教員へのフィードバックとなる。このように理論と実践を往還させることで、教員が教えたい、身に付けさせたいことと、それに応じた適切な教授法や教材の開発が可能となるため、授業目的、教材、実践、分析の一連の流れがパッケージ化できる。本稿でその一例を示すことができているならば幸いである。

引用文献

- 岡田美鈴 (2023a) 「オンラインディベートによるライティング能力と汎用的技能の向上」.
『九州大学基幹教育紀要』(9), 169-182.
- Okada, M. (2023b) A Case Study of Poster Presentation Utilizing SDGs at Advanced Course of National Institute of Technology. The 62nd JACET International Convention.
- 国立高等専門学校機構 (2017) 『モデルコアカリキュラ：ガイドライン』(経済・ビジネス系を除く)』.

白畑知彦（2021）『英語教師がおさえておきたい言葉の基礎的知識』. 大修館書店, 東京.

中村成芳・シティアイシャモクター・岡田美鈴・三浦敬・武藤義彦・市坪誠（2021）「実践的英語インタラクション創出のための理数系共通教育における CLIL 型授業」.『工学教育』69（6）, 122-126.

中村成芳・シティアイシャモクター・岡田美鈴・油谷英明・仙波伸也・市坪誠（2023）「グローバルエンジニア育成に向けた理数系共通教育での CLIL 型授業の改善と検証」. *Journal of JSEE* 71（3）, 71-77.

樋口耕一（2015）KH Coder. Retrieved from <https://kncoder.net/>

文部科学省（2018）『高等学校指導要領（外国語編）』.

資料

図 1 大まかな議論をするための大判プリント (1枚目)



Sustainable Goals
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



Debate Competition ~ Worksheet No. 1 ~

Theme 1: We should abolish the 24-hour operation of retail stores such as convenience stores to reduce power consumption. (SDGs:7&11&13)
(コンビニ等に代表される小売店の24時間営業を廃止し、電力の消費を抑えるべきである、是(肯定)か非(否定)か。)

1. Name (Role)

2. Name (Role)

3. Name (Role)

4. Name (Role)

Today's Method

1. 担当を決める。【リーダー、タイムキーパー、備品係、情報管理係】
2. SDGとはどういうものなのかを確認しておく。イエローポツクスに簡潔にまとめ、グリーンポツクスを使って、①アレインストームングをやって、②テーマについて肯定の立場からどういうアスタトーリーができるかをみんな考える。③その際、議論を補強できるケース(証拠)を調べ、グリーンポツクスの下にURLや内容をメモしておく。
3. ポツクスを使って、①アレインストームングをやって、②テーマについて否定の立場からどういうアスタトーリーができるかをみんな考える。③その際、議論を補強できるケース(証拠)を調べ、グリーンポツクスの下にURLや内容をメモしておく。

*SDGsに即したテーマなので、地域、日本、世界が抱える課題として様々なケース(証拠)を調べ、自分たちの議論を展開していくこと。



What is SDGs?

Sustainable Goals
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD

Brainstorming

Theme 1

Affirmative Side (もし肯定側の立場なら)

Cases (肯定側を補強できる証拠)

Negative Side (もし否定側の立場なら)

Cases (否定側を補強できる証拠)

図 2 立論作成のための大判プリント（2枚目）




Debate Competition ~Worksheet No. 2(立論)~

1. Name (Role)	2. Name (Role)	3. Name (Role)	4. Name (Role)
----------------	----------------	----------------	----------------

Theme 1: We should abolish the 24-hour operation of retail stores such as convenience stores to reduce power consumption. (SDGs:7&11&13)
 (コンビニ等に代表される小売店の24時間営業を廃止し、電力の消費を抑えるべきである、是(肯定)か非(否定)か。)

<p style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; margin: 0;">Today's Method</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 立場を確認し、下の肯定側・否定側、Affirmative・Negativeにそれぞれ○をする。 2. 前回のWorksheet No. 1を見ながら、詳しい立論をまず日本語で組み立てていく。 *その際、1回目と2回目の授業プリントの「立論の作り方」を参考にすること。 *複数のケース（証拠）を挙げて、自分たちの立論を説得力あるものにしていくこと。 3. 英語スクリプトは、日本語を分解しかつ簡潔に表現文例集を活用しながら作成する。 	<p style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; margin: 0;">Rules for Discussion</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必ず全員1つ以上の意見を出す。 2. 相手の意見を批判しない。 3. 意見が分かれた時は話し合っって中間点を探る。 4. 決まった議論は全員の総意。誰か一人の意見で論を勧めないこと。
--	---

肯定側 or 否定側 (日本語で作る)	Affirmative or Negative (英語で作る・表現文例集を活用する)

References

図 3 質疑応答作成のための大判プリント (3枚目)




Debate Competition ~Worksheet No. 3(質疑応答)~

1. Name (Role)	2. Name (Role)	3. Name (Role)	4. Name (Role)
----------------	----------------	----------------	----------------

Theme 1: We should abolish the 24-hour operation of retail stores such as convenience stores to reduce power consumption. (SDGs:7&11&13)
 (コンビニ等に代表される小売店の24時間営業を廃止し、電力の消費を抑えるべきである、是(肯定)か非(否定)か。)

<p style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; margin: -10px -10px 10px -10px;">Today's Method</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分たちの立論を確認した後、対戦相手の立論を偵察に行く。 2. 自分たちが相手に投げかける質問項目を左側に英語で作成する。 *その際、2回目の授業プリントと表現文例集を参考にすること。 3. 自分たちが相手から質問されるであろう項目を右側に日本語で書きだし、その回答を英語で作成する。 	<p style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; margin: -10px -10px 10px -10px;">Rules for Discussion</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必ず全員1つ以上の意見を出す。 2. 相手の意見を批判しない。 3. 意見が分かれた時は話し合って中間点を探る。 4. 決まった議論は全員の総意。誰か一人の意見で論を勧めないこと。
---	--

相手に投げかける質問項目 (英語で作る・3つ)	相手から質問されるであろう項目(日本語で作る) その回答(日本語と英語で作る) *できるだけたくさん想定しておく

図 4 反駁作成のための大判プリント（4枚目）




Debate Competition ~Worksheet No. 4(反駁)~

1. Name (Role)	2. Name (Role)	3. Name (Role)	4. Name (Role)
----------------	----------------	----------------	----------------

Theme 1: We should abolish the 24-hour operation of retail stores such as convenience stores to reduce power consumption.
 (SDGs:7&11&13)
 (コンビニ等に代表される小売店の24時間営業を廃止し、電力の消費を抑えるべきである、是(肯定)か非(否定)か。)

<p style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; margin: 0;">Today's Method</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 立論、質疑応答のワークシートを見ながら、相手の議論の弱い点を探る。 2. 相手の議論を論じ返し、自分たちの議論と比較しながら説得力を持った反駁を作成する。 <i>*その際、1回目と2回目の授業プリントの「反駁の作り方」を参考にすること。</i> 3. 最後に議論の総括となるインパクトの強い一文を作る。 	<p style="text-align: center; background-color: #0056b3; color: white; margin: 0;">Rules for Discussion</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必ず全員1つ以上の意見を出す。 2. 相手の意見を批判しない。 3. 意見が分かれた時は話し合って中間点を探る。 4. 決まった議論は全員の総意。誰か一人の意見で論を勧めないこと。
---	--

相手の議論の弱いところ (日本語で作る)	論じ返し方(自分たちの議論との比較、日本語と英語で作る) 総括となるインパクトの強い一文(日本語と英語で作る)